



大予言者カルキ / Kalki
(1978) / ゴア・ヴィダル
(日夏響訳) / サンリオ
(1/25刊・¥1,600)

これは、奇妙な終末を描いた小説である。
ヒンドゥー教の神ヴィシヌの化身「カル
キ」は、人類の滅亡に際して現われる。ベト
ナム帰還兵ケリーは、そのカルキを自称する。
誰も、彼が本物の「カルキ」であると、信じ
はしなかった——けれども、巧みな宣伝と莫
大な資金力で、カルキは世界を席捲していく。
かくして終末が訪れるが……。

ゴア・ヴィダルは、日本ではテレビや映画
のシナリオライターとして知られている。と
はいえ、長編が本書で十六冊目、認める作家
はナボコフだけという、辛辣な批評家でもあ
る。

本書を強いて分類すれば、破滅物だろうか。
といっても、世に蔓延まんえんしている深刻ぶった情
報小説とは違う。女性飛行士オティンジャー
の著わした、記録の形をとる世界の崩壊は、
パニックもなく、ただ麻薬と権力、マスコミ
の混乱の中で、あっけなく終わってしまう。
明らかに、風刺と諧謔かいぎョクをねらっている。結末
も皮肉だ。全米でベストセラーを記録した、
SFとも、パニックドラマとも異なる描き方
に、一見の価値がある。ただし、訳文は、も
う少し軽妙であるべきだろう。

(俊)